

高次脳機能障害者 社会復帰へ

リハビリ支援拠点誕生

高次脳機能障害者の活動支援の場としてオープンした「あいの家」。共同調理で集中力や社会性を高める。4日、東温市西岡



高次脳機能障害者の活動を支援する場所をつくらうと、家族らによる「愛媛高次脳機能障害者を支援する会 あい」（一色啓祺代表）がこのほど、東温市西岡のアパートの1室に「あいの家」（仮称）を開設した。週2回、当事者が集まり、障害特性に合わせた認知能力リハビリテーションなどに取り組んでいる。

東温に家族ら開設 週2回 料理や買い物

「お昼はそうめん」と初日の4日、「あいの」3人が集まった。作業おにぎりです。まず何「家」には松山市や西条療法士の毛利志保さんをお願いしますか？」。開設 市の20〜30代の当事者（38）らが声を掛け、昼

高次脳機能障害 頭部外傷や脳血管障害、脳腫瘍（しゅよう）などの後遺症で、言語や思考、記憶、注意・判断、情動・行動などに問題が生じる。外見では分かりづらい複雑な症状があり、啓発や当事者・家族の支援体制づくりが遅れていた。愛媛では2009年3月に県の支援連絡協議会が発足。支援拠点機関の松山リハビリテーション病院（松山市高井町）を中心に、体制強化を図っている。

食作りが進む。多くの手順、他者とのコミュニケーションが必要な共同調理は、集中力や社会性を伸ばす訓練になるという。3人はいずれも交通事故で頭部にけがを負い、一時は意識不明に陥った。事故から5〜

時。スタッフ2人が脳場所が少ない」との会員の声を受け、当事者が日常的に通える場の設置を目指してきた。一色代表（1）は「本人はこだわりや依存が強くなる、感情や欲求が抑制できないなど社会的行動の問題もあり、既存障害者施設で他の利用者となじめないことも多い。専門の支援場所が必要」と話している。利用料は月1万5千円（不定期利用の場合1回3千円）。問い合わせは「あい」事務局電話0897（56）7083。（高橋舞）

えひめメディカル

◆筋萎縮（いしゆく）性側索硬化症（ALS）の東予地区講演会・交流会 9月5日午後1時半から、西条市丹原町田野上方の市丹原文化会館で、日本ALS協会東予支部主催。参加料500円（資料代）。たん吸引を自動でする装置の開発を続けてきた大分協和病院（大分市）の山本真院長が「大分市のALS在宅医療と自動吸引装置の開発」と題して講演。患者や家族、医療・介護関係者らによる意見交換、相談会もある。申し込みは8月25日まで、参加者の氏名、住所（勤務先）、電話番号を明記し、日本ALS協会東予支部ファクス089（983）4067、電子メールumi33@orange.oc.ne.jpへ。問い合わせは事務局電話089（984）88054。